ではなぜスイスの若者たちは大学進学を希望する人が少ないのでしょう。

その理由の第一に大工や左官工等の専門職の人たちも、それなりの給料が支給されているからです。

日本でも最近話題になっている最低賃金の見直しを例にとると、スイスでは一般的に技能職でも国家試験を受け資格を持った若者の初任給は約３５００スイスフラン、日本円で５０万円はゆうに超える額です。一方で、家を建てるとかキッチンを新しく作り直すとかする場合は、当然、それ相応の対価、つまり工賃を払わなければならないと言う事です。

一方、中途半端な大学の学部を卒業しても、その高学歴相応の給料をもらえるとは保証されておらず。前者のような技能職を身に着けている人の方が、確実に職を見つけることが出来、それ相当の収入を得られる社会になっていると言う事です。

ヨーロッパはもちろん、スイス人技術者のレベルの高さは、ほぼすべての職種で世界的に認知されています。

話は多少ずれますが、人口わずか９００万人程度の小国スイスは、今もなおスイス軍への徴兵制度があり、隣国の超大国ドイツ、フランス、イタリアなどと一歩の引けも取らないほどの軍事大国だと言う事も事実です。その理由の一つにスイス国民の質の高さがあるでしょう。

つまりすべての面で、少数精鋭主義を貫いていると言っても過言ではないのです。老若男女問わず、スイスでは怠け者はいないと言う事です。われわれ日本人も見習いたいですね。

お恥ずかしいことに、今回のコラムの内容はかなり支離滅裂になってしまいました。大変失礼をいたしました。

では楽しいクリスマスと良い年をお迎えください。小橋

※参考までに。

威厳死とは

"威厳死"（いげんし）は、日本語の言葉で、直訳すると"dignified death"や"dignity death"となります。具体的には、苦しみや痛みを最小限に抑え、尊厳を持って死を迎えることを意味します。

この概念は、患者の自己決定権や快適さを重視するホスピスケアや緩和ケアに関連しています。

「人生」の反対語を考えると、一つの答えとして「死」が挙げられます。人生は生きることを意味し、死は生命の終わりを意味します。

写真/筆者（右）と妻

profire 小橋敏弘

年齢、もうすぐ７０歳。

１９７５年からヨーロッパ在住。その大半はスイスの企業にてサラリーマン生活をし、６４歳からリタイア生活をエンジョイしています。

学生時代をイギリスで過ごし、大学卒業後はスイスに移住。孫６人に囲まれている爺さんです。

趣味は何にでも興味を持ち、最近ではChat GTPを駆使して、幅広い分野を勉強中。

母国語日本語を再勉強しながら、ドイツ語、英語も同時に駆使し、ヨーロッパ各国に住んでいる友達とコミュニケーションを取っています。

唯一、体を動かす趣味は、ここ１０年ほど毎週一回ぐらいのペースでやっておりますCountry Line Danceです。